

ひとりじゃないよ、つながろう

mia forza は  イタリア語で「わたしのちから」という意味です。

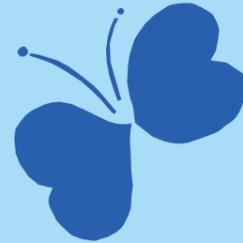
わたしたちは困難に直面している女性や  こどもたちとともに、

その状況を変えるために  さまざまな事業に取り組んでいます。

「こどもの居場所・みあちゃん家」と「寺子屋みあちゃん家」の運営は  そのひとつです。

「みあちゃん家」では、こどもたちが  安心して、安全に、

誰に気兼ねすることなく自分らしく過ごし、 自らの力をたくさんの人たちとともに育んでいます。



わたしたちは、これからも、ひとりでも多くのこどもたちによりそい

「あなたはひとりじゃないよ」と伝え、つながり、応援を続けます。



2022年度こどもの居場所事業報告書

こどもたちが、遊び・学び・集う場所
ようこそ! わたしたちの「みあちゃん家」へ!
「こどもの居場所・みあちゃん家」1年のあゆみ

2023年

発行：特定非営利活動法人 mia forza

協力：合同会社スカイスター
今村瑞江

この報告書は、独立行政法人福祉医療機構(WAM)・令和4年度助成を受けて作成されました。

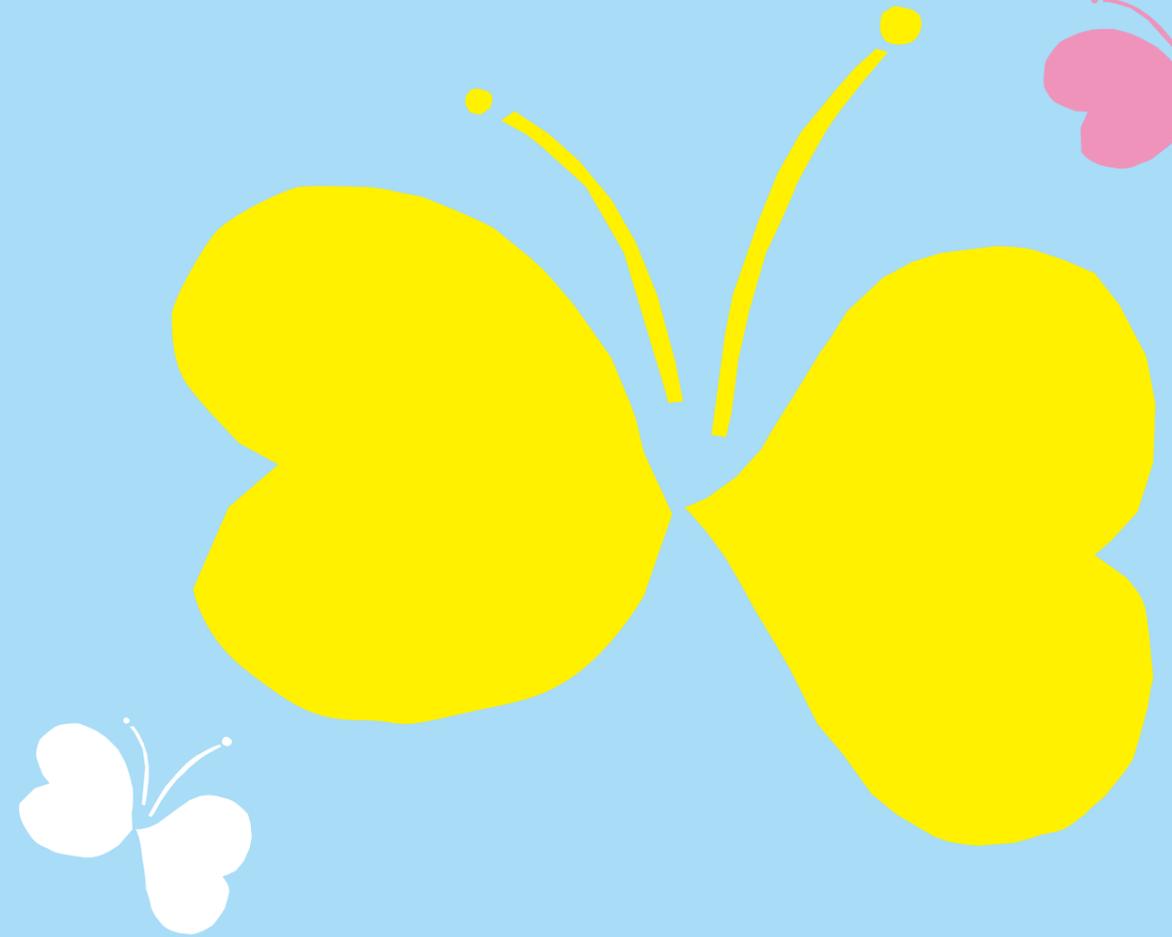
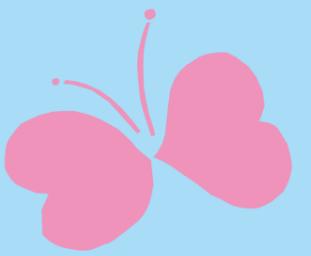
(C)2023 特定非営利活動法人mia forza All Rights Reserved.

本報告書の内容について、文章・図表含め、無断転載・無断使用はご遠慮ください。

転載・使用を希望される方は、miaforza.sendai@gmail.comまで、必ず事前にお問い合わせをお願いいたします。

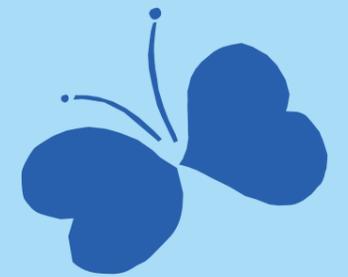


2022年度 こどもの居場所事業報告書



こどもたちが、遊び・学び・集う場所
ようこそ! わたしたちの「みあちゃん家」へ!

「こどもの居場所・みあちゃん家」
1年のあゆみ



 mia forza

はじめに



「学校の勉強がわからなくなっちゃった。コロナで先生とも友達とも仲良くなれていないから、『わからない』とか『教えて』って言いにくいんだ」
 「何でもいいの、『思いつき』やってみたいの。何を?って、言われてもわからないけど、『思いつき』何かやりたいの」
 「学校に友達がいないって言ったら笑う?でも、いないんだ。おしゃべりする人はいるよ。なんかね、学校にいる時だけのかんじ。友達ってこういうことなのかな」

「たくさんの人と出会うって欲しい、いろいろな経験を積んで欲しい。そんなふうに願っていますが、家族は子どもと私だけ。離婚後、実家とも親戚とも疎遠になってしまったし。高望みでしょうか」
 「仕事も節約も頑張っていますが、家計が厳しくて、子どもにせがまれても習い事もさせてあげられずにいます。自分の力のなさを恨めしく思います。してあげられないことばかりで、毎日、情けない気持ちでいっぱいです」
 「宮城には逃げてきました。夫からの暴力です。こちらには知り合いもいません。不安なことばかりですが、相談する相手もいなければ、たわいもない話ができる相手もいません。子どもも私も孤立しています」

私たち特定非営利活動法人mia forzaは、困難を抱える女性や子どもを応援させていただきたいと思い、立ち上がった団体です。2020年、新型コロナウイルスの感染拡大により、これまで困難を抱えてきた方々がより厳しい状況となり、また、困難に直面する方々が一気に増えました。

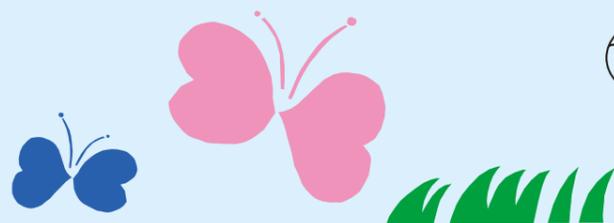
私たちが応援してきた女性や子どもたち、特にひとり親世帯のみなさんの状況は、さらに困難を極めました。社会が厳しい局面を迎える時、その影響を一番大きく受けるのは、いつも困難を抱える方々です。私たちは、2020年3月よりひとり親世帯のみなさんへの食糧提供を開始しました。その中で、子どもたちや親御さんから届いたお声の一部が先の言葉です。

私たちが夢や希望を描き、それを実現するには、どんなことが必要なのでしょう?
 日々の暮らしを安心して安全に送れること。まずはここから、と思い、シェルター運営や食糧提供、相談対応等を進めてきました。日増しに深刻化するコロナ禍で、届いた声になんとか応えたいと願い、形にしたことのひとつが、「子どもの居場所みあちゃん家」です。「子どもの居場所」には、子ども食堂や学習支援、プレーパーク等、さまざまな形態があります。私自身がこれまで長らくたくさんの子ども食堂の運営・立ち上げに関わらせていただいた経験や、当法人メンバー・ボランティアの知見や経験、また、アドバイザーや専門家の方々のご助言を基に、ひとり親世帯の小中学生を対象とした「子どもの居場所みあちゃん家」を立ち上げました。そして、立ち上げから数ヶ月後には、子どもたちの「勉強したい!」「夢をかなえたい。力を貸して!」という声から、学習支援に特化した宮城県内のひとり親世帯の小中学生を対象とした「寺子屋みあちゃん家」を始めることとなりました。

2023年
 例年になく早く咲いた桜は、すでに葉桜となりました。
 日本国内での子どもたちの自死が、過去最高となりました。
 子どもたちを取り巻く状況が、「待ったなし」であることを、私たちは噛み締めています。

「子どもの居場所みあちゃん家」の開始から一年が経とうとしています。
 私たち一人ひとりができることは、とても小さな、ささやかなことかもしれませんが、
 ですが、まだまだできることはたくさんあり、より多くの方々につながりながら進めることで、さらに多くの子どもたちを応援できると思っています。
 「子どもの居場所みあちゃん家」をはじめとする2022年度の事業にお力添えをいただいたすべての組織・個人の方々へ、心から感謝申し上げます。

「あなたはひとりではないよ」
 この言葉を伝えたくて、私たちはこれからも子どもたちや女性を応援して参ります。



2023年 花咲き誇る仙台にて
 特定非営利活動法人 mia forza
 代表理事 門間 尚子



mia forza 「子どもの居場所事業」 2022年度のあゆみについて

「2022年度子どもの居場所事業報告書 子どもたちが、遊び・学び・集う場所 ようこそ!わたしたちの『みあちゃん家』へ!『子どもの居場所・みあちゃん家』1年のあゆみ」では、当法人が「子どもの居場所事業」を立ち上げた背景や事業の成り立ち、利用者の声と宮城県内のひとり親世帯の状況を報告します。



第1章

「わたしたち」について 03

mia forzaの目的と事業概要 / 子どもの居場所事業の目的と行動指針



第2章

担い手を育む 05

担い手育成研修の目的 / 子どもの居場所開設事前研修 / セーフガーディング研修
 子ども・女性応援の担い手育成研修 / 半人前・一人前研修 / ロジックモデル研修



第3章

mia forzaの「子どもの居場所」 09

子どもの居場所・みあちゃん家 / 家庭訪問と個別相談 / 保護者会
 飛び出せ!みあちゃん家 / みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話
 子どもの居場所事業リーダーより / 保護者の声
 「みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話」ゲストの声 / 寺子屋みあちゃん家



第4章

応援しているひとり親世帯の方たちについて 15



第5章

We are “みあちゃん家”! 18

子どもの居場所・みあちゃん家を利用した子どもたちと保護者の声
 大学生スタッフの声 / 社会人スタッフの声 / アドバイザーの声 / 代表理事より



第2章 担い手を育む



担い手育成研修の目的

子どもの居場所みあちゃん家の開設・運営にかかる「担い手育成研修」を、2022年度に10回開催しました。

全ての研修において、共通する「研修目的」は、以下の6つです。

- ①子どもたちの状況を知る
- ②ひとり親世帯の状況を知る
- ③子どもを真真中に置いて考え、形にしていこうについて自ら考える
- ④子どもたちへどんな応援ができるのかを自ら考える
- ⑤「子どもの居場所」とは、どのような場なのかを自ら考える
- ⑥「子どもの居場所みあちゃん家」は、どのような場にしたらよいかを自ら考える

私たちmia forzaでは、全ての研修において、関わる一人ひとりが「自ら考える」ことを重視しています。同時に、考えたことを「お互いに尊重しながら共有する」ことも大切にしています。この二つに重きを置くことで、活動に欠かせない「自発・対等・共感・感謝」を組織の文化として根付かせていきたいと考えています。

子どもの居場所開設事前研修

「子どもの居場所みあちゃん家」開設にあたり、運営参加希望者を対象に研修を行いました。

研修を通して、子どもと関わることに自身との向き合いを行い、当法人における活動だけでなく、今後さまざまな子どもに関する活動へ参加する際のヒントや手がかりを掴んでいただきました。



子どもの居場所開設事前研修

第一回

- 開催日/2022年4月17日(日)
- 場所/Organic Macrobiotic Vegan食堂Cafe おひさまや
- 目的/①子どもたちの状況を知る
②子どもの居場所について知識や情報を得る
- 内容/①特定非営利活動法人mia forzaについて
②ひとり親世帯について
③宮城県内の子ども応援団体と子どもの居場所事業について
④子どもの居場所みあちゃん家について
⑤意見交換

- 第一回および第二回参加者/子どもの居場所みあちゃん家に関わりたい大学生及び社会人のべ27人
子どもの居場所みあちゃん家事業アドバイザー3人 代表理事

第二回

- 開催日/2022年5月15日(日)
- 場所/仙台市シルバーセンター会議室
- 目的/①子どもたちに必要な応援について考える
②子どもの居場所に必要な力について考える
- 内容/ワークショップを通じて、目的①②について考え、お互いの考えを共有後、「子どもの居場所みあちゃん家」の目的や仕組み、機能等の明確化に取り組みました。

セーフゲーディング研修

子どもたちが、心から安心して安全に参加できる子どもの居場所を運営していくためには、どんな知識と姿勢が必要なのでしょう。けがや事故を防止するための安全管理、コロナ等の感染拡大を防ぐための衛生管理や健康チェックだけではなく、私たちスタッフの言動により子どもたちを傷つけないこと、信用を裏切らないことが必要であると考えました。活動者としてだけでなく、事業担当チームとして、法人として、子どもたちを尊重し適切な関係性を築くことを重視し「セーフゲーディング研修」を開催しました。

当法人では、女性や子どもを応援するNPOやボランティア団体で起きているハラスメントへの対応や防止にも取り組んでいます。このような団体におけるハラスメントは、大きな課題のひとつに関わらず、これまで多くの団体がハラスメント防止に取り組む「最初の一步=とっかかり」が掴めないということが多くありました。「とっかかり」を掴めぬまま、結果ハラスメントが起きています。団体におけるハラスメントに取り組むきっかけとして、特に子どもに関わる活動を行なっている団体には、セーフゲーディングは最適な入り口のひとつです。

当法人では、子どもの居場所を運営するにあたり、「子どもの権利」と「子どもの権利を侵害する言動」について、スタッフ全員で学び共通認識を持つために、セーフゲーディング研修を行いました。

セーフゲーディング研修

- 開催日/2022年10月30日(日)
- 開催形式/オンライン
- 講師/公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン様
- 目的/「子どもを守る活動」について必要な知識・姿勢を身につけ、活動に活かす
- 内容/①子どもたちに安心して安全な活動「子どもを守る」活動とは
②子どもたちを傷つけないために必要な約束や姿勢とは
③自分たちの活動において、どのような注意や約束、姿勢が必要かを具体的に考え、今後実践できるよう準備をする
- 参加者/子どもの居場所みあちゃん家運営に関わる大学生及び社会人スタッフ10名
子どもの居場所みあちゃん家事業アドバイザー2人 代表理事・理事3人

子ども・女性応援の担い手育成研修

女性や子どもを応援したいという方向けに、mia forzaでは毎年「子ども・女性応援の担い手育成研修」を数日に渡って行っています。この研修は、当法人のスタッフ・ボランティアを対象とするものではなく、主に宮城県内で女性や子どもを応援する活動をこれから行いたい・すでに行っているという方を対象としています。研修終了後は、当法人で活動をするのではなく、それぞれ希望する団体で活動をしていただくことを想定した研修です。このような研修を行う理由は、大きく二つあります。

ひとつは、日々の活動で忙しいためスタッフ・ボランティアの育成ができずにいる、団体独自のスタッフ・ボランティア研修を企画実施する余力がない、という多くのNPOが抱える状況からです。もうひとつは、同じ研修を受けることで、団体間で顔の見える関係を築ききっかけとなり、地域の中で連携をしながら女性や子どもたちを応援していける基盤を作っていきたいと考えたからです。

2022年度は、2日間に渡り研修を行いました。

参加した大学生スタッフにとっては、他団体の活動者と交流をしながら、他団体の活動を知ることで、自分たちの活動や、自身の活動や子どもたちへの向き合う姿勢について考える場となりました。

子ども・女性応援の担い手育成研修

- 開催日/2022年12月3日(土)4日(日)
- 開催形式/会場とオンラインのハイブリッド方式
- 講師/生活保護問題対策全国会議事務局次長 社会福祉士 田川英信様
一般社団法人シンママ大阪応援団 代表理事 寺内順子様
特定非営利活動法人mia forza 代表理事 門間尚子
- 目的/子どもと女性(ひとり親)をまるごと応援するために、必要な知識と情報を得、対応の基本姿勢を身につける
- 内容/①女性や子どもの置かれている状況と直面している困難について ④ワーク 学びを今後の活動にどのように活かしていくのか
②生活保護制度について ⑤ワーク 団体を越えた活動者同士の交流
③女性や子どものポートの基本について
- 参加者/宮城県内及び山形県内の活動者23人(大学生・会社員・僧侶・教諭・民生委員・主任児童委員・公務員・PTA役員など)
宮城県内でこれから活動をしたいと考えている者1人 助成機関メンバー1人
子どもの居場所みあちゃん家事業アドバイザー1人 代表理事・理事2名

半人前・一人前研修

こどもの居場所事業は、当法人の中でも「育てる」ことの重要度が高い事業

これは、参加するこどもたちのことだけを指しているではありません。

当法人では、今後2年間でこどもの居場所事業を大学生が主体となって運営していく事業へと育てていきます。

2022年度(初年度)は、社会人の事業リーダーを中心に事業を展開しました。

2023年度は、大学生リーダーと社会人スタッフが共同で事業を進めます。

2024年度は、大学生リーダーを中心に、実施します。

「走りながら、人を育て、しくみをつくる」

これは、mia forza の事業運営において大切にしている言葉であり、私たちの活動を体現した言葉でもあります。

第2章では、さまざまな育成研修についてお伝えしていますが、ここでご紹介する「半人前・一人前研修」は、まさにこの「走りながら、人を育て、しくみをつくる」研修です。

研修によって作られた「半人前・一人前リスト」は、スタッフ・ボランティアの活動力のはぐくみの道しるべとなるだけでなく、業務の改善・効率化にも役立つリストとなります。

半人前・一人前研修

IIHOE代表者の川北秀人さんをお迎えして、「半人前・一人前研修」を合計4回開催しました。

- 開催日/第一回 2022年9月25日(日)
第二回 2023年1月9日(日)
第三回 2023年2月28日(火)
第四回 2023年3月28日(火)
- 場所/第一回・第二回 仙台市青葉区
第三回・第四回 オンライン
- 講師/IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北秀人様
- 目的/①事業における「半人前・一人前」に求められる姿勢や技能を定義するとともに、その実践度を確認すること。
②2023年度より担い手育成に活用できる「半人前・一人前リスト」を作成すること。
- 内容/事業全ての業務の洗い出しと棚卸しをおこなった後、各業務を「半人前・一人前」に仕分け、リスト化する。
- 参加者/こどもの居場所事業に関わる大学生・社会人スタッフと代表理事

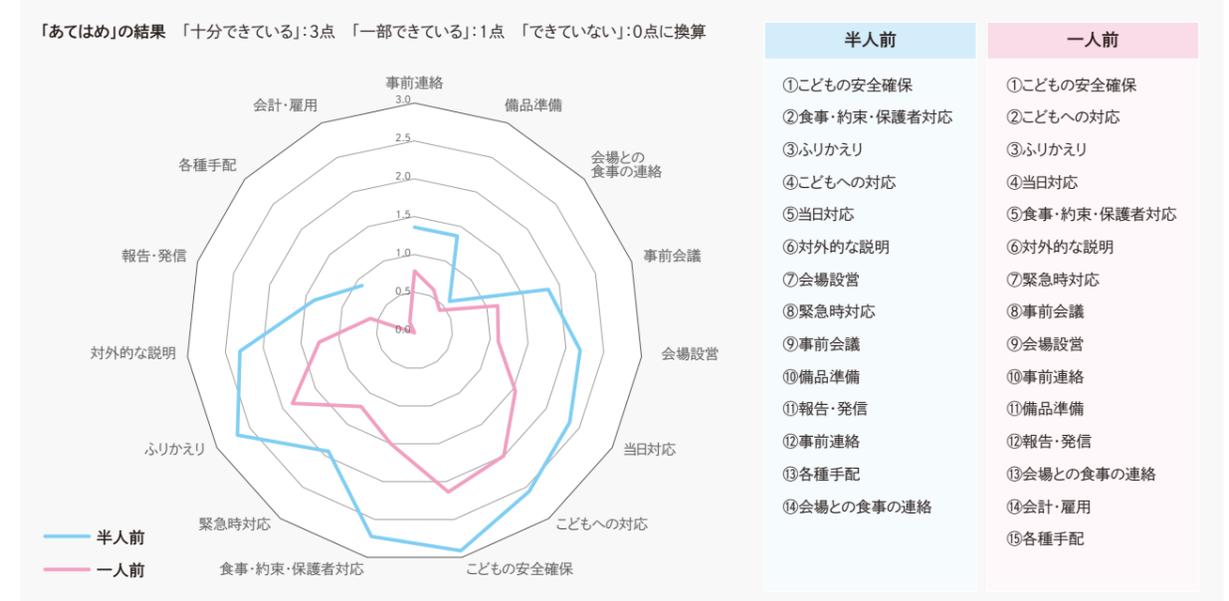
表2-1 半人前一人前チェックリスト(100項目のうち一部を掲載)

2022年度に作成したチェックリスト。大学生・社会人スタッフが活用しながら、定期的に改訂を続けていきます。事業と担い手とともに「半人前・一人前チェックリスト」も、どんどん成長していきます。

No.	段階	前回の研修で挙げられた項目	あてはめ				あてはめ				
			半人前レベル	十分できている	一部できている	できていない	今後の取り組み	一人前レベル	十分できている	一部できている	できていない
1	1	関係スタッフの連絡先を知ることができる。	事務局の連絡先を知っている。				スタッフの連絡先を知っている。				
2	1	大人スタッフとメールでやり取りできる。	事務局とメールでやり取りできる。				スタッフとメールでやり取りできる。				
3	1	各予定のリマインドメールを送ることができる。	決められたタイミングでスタッフにリマインドメールを送ることができる。				みあちゃん家の一連の流れを把握し、適切なタイミングでスタッフにリマインドメールを送ることができる。				
4	1	スタッフのスケジュールを調整できる。					スタッフのスケジュールを調整ができる。				
5	1	学生スタッフの出欠を取りまとめることができる。	学生スタッフの出欠を取りまとめることができる。								
6	1	事務局の出欠の取りまとめができる。	事務局等の出欠を取りまとめることができる。								
7	1	こどもたちの出欠を取りまとめることができる。	当日のこどもの出欠を把握できている。				保護者とやりとりをして、こどもたちの出欠を取りまとめることができる。				
8	2	こどもが欲しいもの(折り紙・ボールなど)を理解して準備することができる。	必要な備品や消耗品を把握し、準備することができる。				必要な備品や消耗品について年間計画を立て、購入することができる。				
9	2	各自スタッフ必要なものの把握ができる。	自分が担当しているこどもに必要なものの把握ができている。				みあちゃん家に必要なものの把握ができている。				
10	2	こどもたちの怪我に対応するための道具の準備ができる。	怪我に対応するための道具の準備ができる。				危険を予測し、必要な道具を購入して揃えることができる。				

表2-2 レーダーチャート

2022年度スタッフの「半人前・一人前リスト」の結果。項目によっては「半人前」に含まれないものもあるため、このような形となっています。



ロジックモデル研修

本事業は、複数の機関から助成金や情報・物品の提供を受けて行われています。

ひとり親世帯の中学生のための学習支援「寺子屋みあちゃん家」へ助成をいただいている公益財団法人ベネッセこども基金様では、事業担当者向けのさまざまな研修を行っています。

研修のひとつ「事業評価研究」に参加した事業サブリーターが、大学生スタッフへ学び伝え、事業のこれまでの振り返りを基に、今後の事業への取り組みについて考える場を設けました。

ロジックモデル研修

- 開催日/第一回 2022年12月25日(日)
第二回 2023年1月9日(日)
- 場所/第一回・第二回 仙台市青葉区一番町
- 目的/こどもの居場所事業の半年の取り組みの振り返りと今年度の目標達成に向けた取り組みの明確化。
- 内容/事業サブリーターがファシリテーターとなって、事業の振り返りと目標達成に向けた今後の取り組みについてワークショップ形式でロジックモデル、評価指数の仮説を作成した。
- 参加者/大学生スタッフ7人 事業リーダー 事業サブリーター アドバイザー1人 代表理事



第3章

mia forzaの「こどもの居場所」



2020年1月の新型コロナウイルスの国内感知とその後の急激な感染拡大で、mia forzaの活動は大きな変化を余儀なくされました。それまで行ってきたDV・性暴力などの被害に遭われた女性の語り合いの場の開催とシェルターの受け入れは中止となる一方で2020年3月より宮城県内の子ども食堂やフードバンクとの連携によって宮城県内のひとり親世帯への食糧提供事業を始めました。

その後、コロナの急激な感染拡大と終わりのないコロナ禍の中で、県内各地のひとり親世帯からのSOSが増加。経済的な困窮だけでなく精神的にも身体的にも、たくさんの親子が追い詰められていきました。

1世帯当たりの食糧提供量を増やしても、ひとり親世帯が抱える課題の解決にはつながらないことから、2021年秋に食糧提供事業を利用している世帯に協力いただき「必要な応援」についてアンケートとヒアリングを行いました。

家計の安定を目指した「就労・転職の支援」「資格取得支援」や「現金給付」の声が挙がるかと思いきや、多くの家庭から「子どもへの応援」を希望する声がありました。そこには、コロナ禍で子どもたちに時間もお金もかけることが出来ず、心苦しさを抱えたひとり親の姿がありました。「今までも切り詰めてなんとか生活をしてきました。コロナの影響で収入が減ってしまい、今まで以上に子どもに我慢をさせなくてはならなくなりました。親として不甲斐ない。情けない気持ちでいっぱいです」

同じ頃、子どもたちからも声が届き始めます。

「学校の勉強がわからなくなっちゃった。コロナで先生とも友達とも仲良くなれていないから、『わからない』とか『教えて』って言いにくいんだ」「コロナで、学校に行けたり、行けなかったり。友達もあんまりできないし、学校に行くのが嫌になっちゃった」

そんな声を受け、私たちはこどもの居場所事業を始めました。

居場所の名称は、「みあちゃん家」。

法人名から「みあちゃん」と命名しましたが、利用している子どもたち一人ひとりの「家」であることを願いつけた名称です。

こどもの居場所・みあちゃん家

小学生から高校生を対象に、子どもたち一人ひとりの「これやりたい」を実現する場として開設。子どもたち一人ひとりに担当の大学生を配置。「学びと遊びと食」を柱に、毎月1回第四日曜日の午後、仙台駅前・Organic Macrobiotic Vegan食堂Cafe おひさまやにて開催しました。

通常のみあちゃん家の開催のほか、年2回「飛び出せ!みあちゃん家」と銘打ち、宮城県内の高齢化・人口減少が進む地域へ伺い、地域の方々との交流、自然・芸術体験を実施。親戚関係において孤立傾向にあるひとり親世帯の子どもたちの実家づくりを目的に開催しました。

本事業では、子どもたち一人ひとりの「個人カルテ」を作成しています。参加申し込み時から今日までの記録が、担当の大学生スタッフの手で綴られています。カルテを記録することは、子どもたちの成長を記すだけでなく、綴る大学生スタッフの成長記録にもなっています。カルテには、子どもたちの状態や状況に対する私感や考察、いつどんな対応をしたのか、結果どのような変化があったのか・なかったのか等が記されています。その内容をミーティングで共有しアドバイザーから助言をもらいます。この繰り返しを丁寧に継続することで、子どもたちと一緒に大学生スタッフも、そして本事業も成長していききました。



こどもの居場所・みあちゃん家

●開催日時 / 毎月第四日曜日 15:00-18:00

●場所 / 仙台市青葉区中央

Organic Macrobiotic Vegan食堂Cafe おひさまや

●参加費 / 無料

●対象者 / 宮城県内のひとり親世帯の子ども。

小学生4人 中学生4人

●目的 / ①子どもたちとその親に対して、家庭や学校では出会えない多様な人々との出会いの提供。

②出会いや経験を通じた自尊心のはぐくみ。

③家庭や学校、地域を離れた場での自己実現。

●スタッフ / 大学生スタッフ7人 事業リーダー 事業サブリーダー

アドバイザー3人 代表理事

●タイムスケジュール

14:00	スタッフ集合 直前ミーティング
15:00	子どもたち来所 子どもたちの緊張緩和を目的とした オリジナルゲームを用いたアイスブレイク
15:40	遊びと学びの時間
16:45	集合・各自担当の大学生と振り返り
17:00	夕食・だんらん
17:45	片付け・掃除
18:00	子どもたち退所 当日振り返りミーティング
19:00	スタッフ解散

家庭訪問と個別相談

2022年4月。開設にあたり、FacebookをはじめSNSとチラシにて参加者を呼びかけました。参加を希望した各家庭へ代表理事と理事が伺い、事業の説明を行いました。また、家庭状況や親子それぞれの思いや希望を伺いました。家庭訪問で聞き取った内容を基にアドバイザーと社会人スタッフ・代表理事が選考を行い、2022年度の利用者を決定しました。

(※2023年度の利用者選考は、大学生リーダーが中心となって行われています。)

代表理事による家庭訪問は、その後も各家庭の要望で行われて行きました。各家庭から寄せられる声は、時に切迫したものもありました。

「今、子どもが暴れています。助けてください!」

「私の財布から、子どもがお金を取るようになってしまいました」

「何を聞いても泣き続けています。どうしたらいいのでしょうか」

昼夜問わず入るSOSに呼応し、家庭訪問が行われました。

当法人のこどもの居場所事業は、参加の際の送迎を保護者をお願いしています。不安や悩みを抱えていても忙しくて相談する時間がない、という声をよく耳にしていたことから、送迎の際、路上で個別相談を行うこととしました。子どものことだけでなく、親自身のこと、元パートナーのこと、親族のこと、お金や健康のことなど、内容は多岐に渡りました。

家庭訪問後の保護者の感想

「家庭訪問と聞いて親子ともガチガチに緊張しましたが、想像していたものとは違ってほっとしました。和やかな雰囲気良かったです」

「みあちゃん家がどんな感じかわからなかったのが、代表理事にお会いして安心して申し込みできた」

「通う前にどんな人と何をするかお話を聞けたので、子どもも安心したと思います」

保護者会

利用世帯の保護者を対象に、年3回保護者会を開催しました。子どもたちの様子を共有するだけでなく、ひとり親としての子育ての悩みや保護者自身の悩みや思いを語り合うピアサポートグループとしての位置づけです。自治体と当法人のひとり親世帯アンケートより、「相談する相手がいない」「誰に相談したらよいかわからない」「子どものことを誰かに話したかった」等の声を踏まえ、開設しました。

「周りにひとり親がいないので、ひとり親同士で話せて良かった」「ついほかのお宅と自分を比べてしまう癖があり、聞いていてまだまだ自分は努力が足りないな、自分はダメだな、と思ってしまう話がありました。ちょっと落ち込みましたが、でも、ほかのお母さんたちが頑張っていることを知ることができ、私も頑張ろう、と励みになりました」との声が寄せられました。

飛び出せ! みあちゃん家

「飛び出せ!みあちゃん家」と称して、宮城県仙南の丸森町筆甫と七ヶ宿町へ出かけました。丸森町筆甫では、山歩きや農作物の収穫、ピザ窯でのピザ焼きを地元の方々と楽しみました。七ヶ宿町では、炭焼きの方や陶芸家の方々に薪割りや陶芸を教えてくださいました。

「飛び出せ!みあちゃん家」では、日常では味わえない体験と出会いを提供することだけではなく、長期休暇の思い出づくり、そして、子どもたちの擬似実家づくりを目的に行いました。なお、2023年度も引き続き、丸森町筆甫と七ヶ宿町へ出かける予定です。



みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話

「こどもの居場所・みあちゃん家」計11回の開催のうち「みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話」を3回開催しました。丸森町筆甫地区振興連絡協議会事務局長・出版社編集者・せり農家の方をお迎えして、その方のこどもの頃のエピソードや仕事についてお話を伺いました。丸森町筆甫地区振興連絡協議会事務局長のお話を伺った後、「飛び出せ!みあちゃん家」で同地区を訪れたり、出版社編集者のお話を伺った後にその方が編集された書籍をいただいたり、せり農家の方のお話を伺った後にせり料理を楽しんだり(※2023年度に同せり農家へお伺いして農作業体験をします)。「話を伺う」とどまらない「講話」を企画・実施しました。



こどもの居場所事業リーダーより

「こどもの居場所・みあちゃん家」は、子どもたち一人ひとりの「これ、やりたい!」を形にしていく場です。子ども一人に学生スタッフひとりに対応し、それぞれの「やりたい」気持ちを大切に、その実現をサポートしています。小学2年生から中学3年生までの子どもたちに、安心して自分らしく過ごせる居場所を提供しました。「こどもの居場所・みあちゃん家」では、食事の提供(無料)も行っています。一緒に遊んだり学んだりしてから、一緒にご飯を食べ、心もおなかも満たされてそれぞれの家に帰ります。新型コロナウイルス感染症対策のため、7月以降はお弁当持ち帰り形式をとりました。夏と秋には、いつもとは違う場所・いつもとは違う体験を通して身体や感性を育てる野外体験「飛び出せ!みあちゃん家」を実施しました。夏休みには、丸森町筆甫地区で野菜の収穫や山歩きを通して大自然を満喫し、秋には七ヶ宿町で薪割りや陶芸体験を行いました。多様な仕事をする大人から、その仕事についての話や現在に至るまでの道のりを紹介してもらう「みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話」を開催しました。様々な世界への興味や、将来の職業選択への理解、働くことへの希望などを得られるよう計画した企画です。保護者に対しては、こどもの教育や成長について安心して相談できる場として3ヶ月ごとに保護者懇談会を設け、必要に応じて食糧提供や語り合いの会など、他の事業と連携して多面的に生活の応援を行いました。大学生を中心とするスタッフは、毎月事前ミーティングと振り返り会を行い、今子どもたちにとっての最善は何かを話し合い、その結果を実施することで「こどもの居場所・みあちゃん家」を更新し続けています。



保護者の声

「今まで大学生くらいの年齢の方と関わることがなく、またたくさんの方の方に囲まれて過ごすことも未経験だったので、初めは楽しく過ごせるかと心配な気持ちもありました。しかし2回目から早く行きたいと凄くうきうきとした表情で言われて、とても嬉しかったのを覚えています。外遊びなど子どもが満足するまで一緒に出来ないことも多いので、公園などに連れて行って一緒に遊んでもらえるのも本当に感謝しております。そして毎回とても美味しいお弁当をいただき、こどもとこれは何だろうとお喋りしながら楽しく食べさせてもらっています。参加したきっかけは家以外で勉強する場所があったらいいなあという気持ちでしたが、今は勉強に関係なくこどもにとって楽しい居場所が出来て本当に良かったと思っています。」(※コロナの感染拡大により2022年7月からしばらくの間、夕食はお弁当の配布に切り替わりました。)

「みあちゃん家に参加するようになってから、ゲームと距離を置いて学習に意欲的に取り組めるようになり、歴史や化石等色々な事に興味を持つようになったと感じます。家ではゲームや動画等時間を気にせず使用しているので、親が頭ごなしに言うのでなく一緒にルールを決めなくてはと思っている所です。本当にこのような取り組みしていただき感謝しかありません。」

「参加してよかったと思っています。今後も続いて参加できれば良いなあと思います。食糧提供の時のパンフレットを読んでこどもに良いのではと、こどもに相談しました。慣れない場所、大人、電車で一人で通う事に対して最初は戸惑っていたと思います。初めて参加したその日は帰ってきてからずっと、みあちゃん家の話をしていました。その日の出来事に対する自分の考えと周りの対応の違い等。いろんな刺激を受けたようです。」

「迎えがちょっと早めに着いたら、『早かった!』とこどもに怒られてしまいました。こども達の様子から、一人ひとり丁寧に気にかけてもらっている事が伝わります。こども達も安心できる楽しい場所があって、情緒も安定してきたと思います。特に娘がよくニコニコするようになりました。習い事も満足にさせてあげられておらず凄く気がかりだったので、休みの日に行く場所がある事で気が楽になりました。体力の余裕がなく減入りそうになりますが、頑張っています。」

「小学生から大学生や社会人の方まで幅広い年齢層の方と過ごすことで、今まで過ごしてきたこどもの小さな狭い世界が、広く深くなったと思っています。七ヶ宿遠足では、陶芸など普段体験することのできないことをさせていただき、こどもも大喜びでした。さっそく出来上がったお皿を使って、自ら焼いた塩鮭をおいしそうに食べていました。自分で作ったお皿で食べる料理は格別だと思います。みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話は、中学生のこどもにとって、「働く」ということを考えさせられる体験だったと思います。いろいろな職業を知って視野が広がることによって、自分の進みたい道を選び進んでいけたらと願います。みあちゃん家では、遊びと学びの体験ができて、それがこどものことを考えてくれた内容であることが私にもとても伝わり、「孤」育てであった我が家でしたが、皆様に支えられてこどもを育てていると感じ、力をもらっています。また、こどもが笑顔になれる場所があるということは、こどもにとっても嬉しいことですが、母としてもとても嬉しいことです。」

「みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話」ゲストの声

「みあちゃん家に集う子どもたちは、皆元気で屈託がなく、楽しそうで、とても寛いでいるように見える。それを担保しているのは代表の門間さん他、スタッフの方々のきめ細やかな配慮、計画、準備にあると感じた。メンター役の大学生へのバックアップ、フォロー体制も整っており、ここにもmia forzaのしっかりとした組織体制が窺える。事業運営にPDCAサイクルをうまく回し、安定的で持続的な組織存続を計画しているように見受けられた。これは一朝一夕で出来上がるものではない。スタッフの方々の並々ならぬ努力と奮闘の賜物であろう。家庭でも学校でもない、子どもたちの第三の居場所、みあちゃん家の今後にささやかな希望を持たざるを得ない。」

mia forza「こどもの居場所事業」2022年度のあゆみ

2022年		2023年	
3月31日	アドバイザー会議	9月25日	第一回前半前・一人前研修 こどもの居場所・みあちゃん家
4月1日	参加者呼びかけ開始	9月27日	振り返りミーティング
4月9日	アドバイザー会議	9月30日	寺子屋みあちゃん家
4月17日	第一回こどもの居場所開設事前研修	10月7日	寺子屋みあちゃん家
4月下旬	家庭訪問開始	10月14日	寺子屋みあちゃん家
5月上旬	参加者決定	10月16日	飛び出せ!みあちゃん家事前打ち合わせ
5月15日	第二回こどもの居場所開設事前研修 アドバイザー会議	10月18日	事前ミーティング
5月17日	事前ミーティング	10月21日	寺子屋みあちゃん家
5月22日	こどもの居場所・みあちゃん家開設	10月23日	こどもの居場所・みあちゃん家
5月24日	振り返りミーティング	10月25日	振り返りミーティング
6月中旬	保護者個人面談	10月28日	寺子屋みあちゃん家
6月21日	事前ミーティング	10月30日	セーフガーディング研修
6月26日	こどもの居場所・みあちゃん家	11月4日	寺子屋みあちゃん家
6月28日	振り返りミーティング	11月6日	飛び出せ!みあちゃん家 in セブ宿
7月中旬	保護者個人面談	11月11日	寺子屋みあちゃん家
7月19日	事前ミーティング	11月18日	寺子屋みあちゃん家
7月24日	こどもの居場所・みあちゃん家 みあちゃん家おとな図鑑・職業人講話 アドバイザー会議	11月22日	事前ミーティング
7月26日	振り返りミーティング	11月27日	こどもの居場所・みあちゃん家
7月31日	飛び出せ!みあちゃん家事前打ち合わせ	11月29日	振り返りミーティング
8月7日	飛び出せ!みあちゃん家 in 筆甫	12月2日	寺子屋みあちゃん家
8月23日	事前ミーティング	12月3日・4日	こども・女性応援の担い手育成研修
8月28日	こどもの居場所・みあちゃん家 保護者懇談会	12月9日	寺子屋みあちゃん家
8月30日	振り返りミーティング	12月16日	寺子屋みあちゃん家
9月2日	寺子屋みあちゃん家開設	12月20日	事前ミーティング
9月9日	寺子屋みあちゃん家	12月23日	寺子屋みあちゃん家
9月16日	寺子屋みあちゃん家	12月25日	第一回ロジックモデル研修
9月20日	事前ミーティング	12月27日	振り返りミーティング

寺子屋みあちゃん家

「こどもの居場所・みあちゃん家」事業に参加をしていたある中学生から「受験生だけ、勉強がわからない。どうしよう。」との相談がありました。ほかの子どもたちにも聞いてみると「勉強がわからなくて誰かに助けて欲しいけど、コロナで学校に行ったり行けなかったりして、先生にも友達にも聞きにくい」「コロナで学校休校が多くて、どこからわからなくなったのかもわからない」「家ではきょうだいがいて勉強に集中できない」「友達と塾に通いたかったけど、うちはお金がないから無理そう」「高校、どこに行きたいのか、行けるのか、何にもわからない」など、たくさんの声が寄せられました。そこで、急遽2022年9月から毎週金曜日に、中学生向けの無料学習サポート「寺子屋みあちゃん家」を始めることにしました。

学習指導はマンツーマン。学習指導のほか、親子・友人関係の「もやもや」を語り合うこともしばしばあります。寺子屋みあちゃん家では、勉強に取り組むために欠かせない、心理的安心・安全を意識しながら子どもたちに関わることで、子どもたち一人ひとりの自尊感情の育みを応援します。日頃の授業対策のほか、定期試験や英検・漢検・数検対策も行っています。高校受験対策の中では、志望校の選定や志望校に合わせた対策のほか、模擬面接も実施しています。

休憩時間は、将棋やオセロ、カードゲームをしています。メリハリをつけたタイムスケジュールで、集中力と学習意欲を高めています。軽食は、毎回、主食・副菜・菓子・果物。学習時に必要な、糖分やビタミンが摂れるように配慮していただいています。勉強の合間にペロリと完食することもあれば、大切そうに持ち帰ることもいろいろです。

2023年3月。志望校合格の報告がありました。



寺子屋みあちゃん家

- 開催日時/毎週金曜日の19:30-21:30開催。
- 会場/仙台市青葉区中央 Organic Macrobiotic Vegan食堂Cafe おひさまや
- 参加費/無料
- 目的/ 困難を抱えるひとり親世帯の中学生の「学びたい!」を応援することで、子どもたちが将来への夢や希望を描いたり、力と可能性を広げることができるようになることを目指す。
- 内容/ 宮城県内のひとり親世帯の中学生へ軽食付無料学習サポートと英検・漢検など各種資格取得に係る試験費用とみやぎ模試の受験料、利用期間中の文具購入費用の提供。学習サポートは大学生スタッフが、マンツーマンで行う。また、子どもたちだけではなく親が抱える 養育に関する不安についても、個別相談や家庭訪問にて対応する。
- 対象者/ 宮城県内のひとり親世帯の中学生
- 利用人数/ 中学生4人(仙台市・名取市・塩竈市)
- スタッフ/ 大学生4人 社会人ボランティア2人 アドバイザー 事務局 代表理事
- 助成/ 公益財団法人ベネッセ子ども基金様



2023年1月 保護者アンケートより

利用前、子どもについて心配だったことや、利用動機

「子どもから、クラスの多くの友達が塾に通いだしたから自分も通いたいと言われましたが、経済的に通わせてあげられませんでした。寺子屋みあちゃん家で無料で学習支援をしていただくと知り、子どもに話したら、通いたい!と言うので申し込みました。母子家庭で近くに親族もいないので、学校と私だけというこどもの関わる世界の狭いことが心配だったので、寺子屋みあちゃん家に行くことで、年齢の違う人たちと関わりを持てればと思いました」

「少しでも学力向上を期待した」

「成績が下がっているものの自宅学習があまり積極的でなく、塾に行かせたかったのです」

こどもの変化

「今までも自宅学習は進んでやれて勉強意欲のある子でしたが、寺子屋みあちゃん家に通うようになって、楽しそうに勉強をするようになりました。また、毎週会える人や待っている人がいるということがとても嬉しいようで、帰り道はいつも一週間で一番明るい笑顔になっています」

「毎週一人で通塾できた」

「自宅学習をやや意識するようになった。行動範囲が広がった事で頼もしくなったように感じます」

こどもの学校での人間関係の変化

「子どもにとって、クラスメートとの会話で、塾に通っていないことに劣等感を感じていたようですが、自分も塾に通っているしかも軽食付きでオシャレなカフェで、ということがとても嬉しかったようです。みんなと同じを意識する中学生にとっては、みんなと同じく塾に通えることが大きなことだと知らなかったのも、寺子屋みあちゃん家を利用させていただけてありがたいです」

「物おじせず、困っている人がいたら自分から声をかけられるようになった」

「夏休み明けくらいから、先生やクラスメートとの関わりが増えたと担任の先生から三者面談で言われたので、寺子屋とみあちゃん家のおかげだと思います」

親自身の変化

「毎週の送迎は大変ですが、一時間弱一人で自分の時間を過ごすことが出来て心が休まります」

「気が楽になった」

「金銭的に厳しく満足に習い事もさせてあげられてなかった事で自責の念に駆られていましたが、その気持ちがだいぶ解消されて気持ちになりました。ママ友と習い事や塾の話題になると萎縮してしまっていたので...」

家庭全体の変化

「子どもは塾(寺子屋)に行けて嬉しいようでとても楽しそうにしていますし、それを見て母としても嬉しく、親子で幸せな気持ちになります」

「寺子屋であったことや、電車の中だったり色々な考えを話してくれるようになった」

「最近子どもが(寺子屋で)甘えている様子があると聞いたので安心しました」



文具購入・各種試験受験料などの補助について

「試験受験料の補助は非常に助かりました!今まで英検を受けたいと言われても、受験料が高いから履歴書に書ける3級からならいよと受けさせてあげられませんでした。今回補助していただけるということで、4級の受験ができることになり、子どもがとても喜んでます。数検も受けたいと言い出し、やる気がアップしています。こどものやる気があっても、経済的に受験させてあげられないのは親としては非常に辛いので、このように補助していただけるのはとても嬉しいです」

「そこまでサポートしていただけたらと思っていなかったのだから感謝しています」

利用してよかったこと

「今までは子どもに頼まれて勉強を見てあげてそれが結構な負担でしたが、塾に通わせてあげられていないという罪悪感から時間を削いで勉強を教えていました。塾に行かしてくれないから教える的な態度と、私は頼まれたから教えてあげているという気持ちのズレから、勉強を教えている最中に口論に発展してしまうこともありました。今は寺子屋で教えてもらっていることで、負担も喧嘩も減りとても助かっています」

「私が一人で対応していたら、気持ちが一方通行で子どもに上手く伝わらなかったと思う。第三者が入ることで、冷静に考えて行動に移すことが出来たと思う」

「私以外に関わってくれる大人がいてくれる事が、とても助かります」

軽食について

「経済的に厳しく外食はほとんどしないので、お弁当の蓋を開けるとはいつも目を輝かせながら、すごい!こんなもの食べたことがない!と大喜び。毎回興奮しながら美味しく食べています」

「食生活が乱れていたで、少し改善されました」

「フルーツが大好きなので、いつもみかんやりんごを食べさせてもらって喜んで帰ってきます」



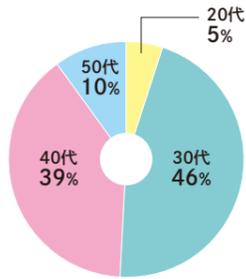
第4章

応援している ひとり親世帯の方たちについて



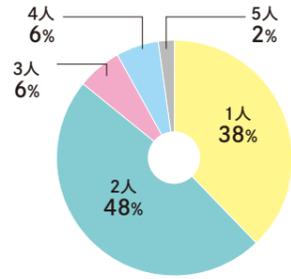
当法人のサービスを利用しているひとり親世帯は、宮城県内を中心に約500世帯。2022年一年間で、1,500人以上になります。その中の40世帯のひとり親の方に、毎月Webアンケートと面談・電話によるヒアリングにて、お声をいただいています。本章では、応援しているひとり親世帯の方たちのお声をお届けします。

Q あなたの年代を教えてください。



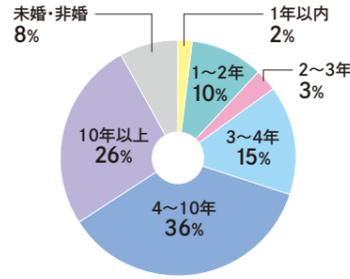
多くが30-40代。お子さんの年代は未就学児や小学生が多く、まだまだ子育てに時間を必要とする世代が中心です。

Q お子さんの人数を教えてください。



お子さんが1人-2人という世帯では「子どもと自分(親)だけなので、親以外の大人との関わりが必要」と考える親御さんが少なくありません。「子どもに必要なこと」(自由表記)を伺った際には「(親以外の)頼れる大人」「学校や家庭以外のコミュニティ」「大人の支援」「居場所」「他者交流」「こどもらしい体験」との声がありました。

Q 離別・死別から何年くらい経っていますか?



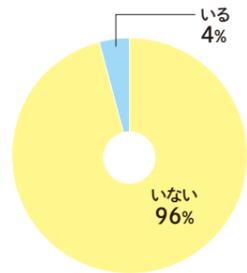
離婚から4年以上経過している世帯が62%に上ります。子の成長に伴う出費の増加に加えコロナ禍の家計の切迫。「離婚直後よりも生活が厳しい」と話す方も少なくありません。国や自治体の調べでは「未婚・非婚」によるひとり親が増えているとのこと。当法人の食糧提供事業利用者においても、その傾向が見られます。

Q お子さんに障がいがありますか?



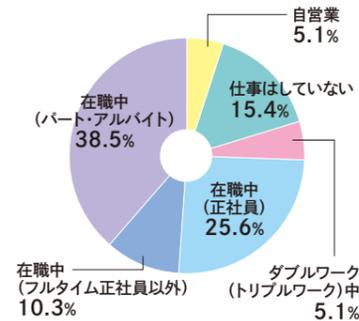
「なし」と答えた方の中には、「障がいとの診断はないが、その傾向があると思う」との回答が複数ありました。また、「障がいとはされていないが、多動で見ていないと心配」「年齢も上がってきたので大丈夫、と思っても、いの中に開くような危険な行動も多く気がでない」という声も聞かれました。

Q 不登校のお子さんはいらっしゃいますか?



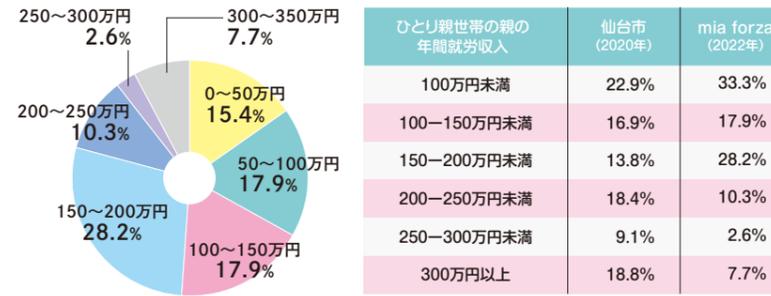
不登校の子どもは「いない」と回答している方の中には、「毎日学校へ行っているが、決まった時間には登校ができていない」「ひとりで通学する不安があるのか、毎朝、車で送って行かないと登校できない」「いじめに遭ったことがあり、それ以来、登下校の際には必ず同伴して欲しい」と子どもから頼られている」と話される方もあります。

Q 今現在お仕事をされていますか?



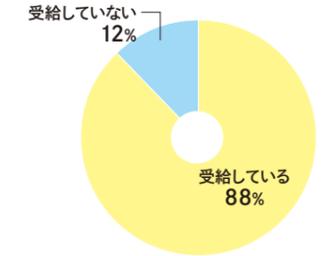
正社員として就労している方は25.6%。多くの世帯が、非正規就労です。「仕事はしていない」と答えた15.4%の方の約半数が、親御さん自身の体調不良や障がいのため、もう半分は、子に障がいがあり送迎や付き添い・通院が必要だったり、いじめ・不登校による通学困難のため子の付き添いが必要のため就労ができないとお話がありました。

Q 昨年2022年の一年間の収入(給与収入)を教えてください。



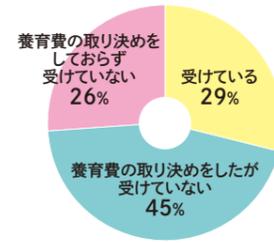
年間収入額には、児童扶養手当・特別児童扶養手当・児童手当・養育費は含まれていません。当法人が応援しているひとり親世帯のうち3割が、年収100万円未満となっています。

Q 児童扶養手当・特別児童扶養手当は受給していますか?



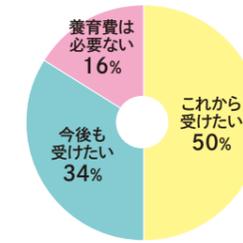
「受給していない」という方の中には、遺族年金受給の方が含まれています。コロナ禍で、配偶者(子の父)の自死を経験した世帯からの「SOS」が増えています。

Q 元配偶者や子の親から、養育費を受けていますか?



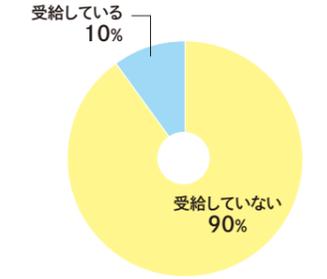
「取り決めをしたが受けていない」という方の中には、「家庭裁判所で決めたのに支払われない」「連絡先や住所を変えられてしまい、請求できない」等の声が。「取り決めをしておらず受けていない」という方の中には、「DV(子への虐待含む)のため、いのちの危険があり離婚さえできれば良いと思った」「未婚で認知すらしてもらっていない」という声がありました。

Q 養育費について、今後のお考えを教えてください。



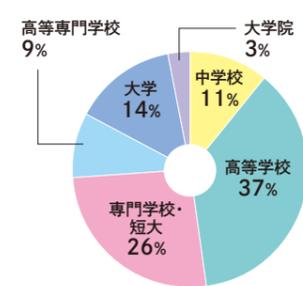
「必要ない」と答えた16%は、「家計に余裕があり不要」ということはありません。「取り決めをしたが、どれも守られていないので今さら無駄に子どもたちを傷つけたくない」「DV離別のため、二度と関わりたくない。やり取りはできないし、したくないので『必要ない』と答えたが、家計は苦しいので、本当は欲しい」等の記載がありました。

Q 生活保護は受給されていますか?



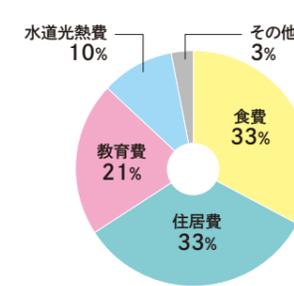
ほとんどの世帯が働きの収入を得ていることから、生活保護受給世帯は10%にとどまっています。生活保護受給世帯の方の中には、元配偶者との婚姻期間中に受けたDVの後遺症により働けない状態となっている方や、子に障がいがあり働くことができないという方もあります。

Q 親本人の最終学歴



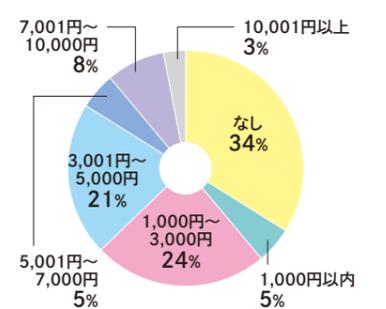
中学卒業の方の中には高校卒業等認定試験を受けたと考えている方もあります。当法人では、ひとり親の高卒認定受験を応援する制度の案内のほか、2023年度から高卒認定全科目合格を目指す方への学習サポートを「寺子屋みあちゃん家」にて行います。

Q 家計で一番何にお金がかかっていますか?



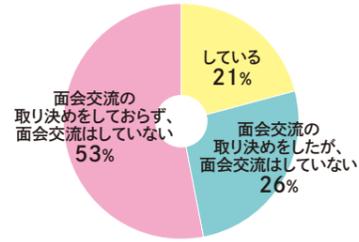
「夜20時以降は電気をつけない」「自分は2日に1食にして食費を減らし、子どもたちに食べさせている」「お風呂は2日に1回」等、コロナ禍でひとり親世帯の家計はさらに厳しくなっています。また、高校生以上の子どもたちからは「親が食事を減らしていることを知っているので、自分も1日1食に減らしている」という声が届いています。

Q 毎月の家計の中で、自分のために使うお金はありますか? その金額はいくらぐらいでしょうか?



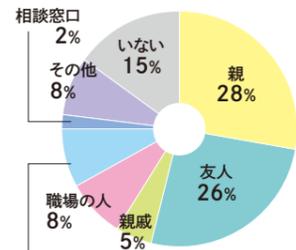
34%の方が「自分のために使うお金はなし」と回答。「髪は自分で切っている」「化粧品はもちろん化粧品や乳液等、もう何年も使ったことも見たこともない」「具合が悪くても、通院したことは妊娠出産以降ない」等、自身にお金を徹底的に減らしていることが伺えます。

Q お子さんは、別居親と面会交流をしていますか？



「取り決めをしておらず、面会交流はしていない」は53%。ここでは、DVや子への虐待のため「離婚や逃げを優先し」取り決めはしなかったという方が少なくありません。また、協議離婚の際に「離婚届の提出のみで養育費や面会交流等の取り決めをしなかった」という方もあります。

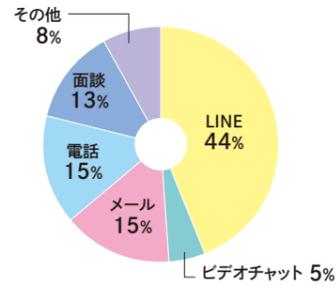
Q 相談できる相手はいますか？ひとりお選びください。



学校や保育園など子どもが利用している機関の先生 8%

「相談相手はいない」と答えた方は15%。「仙台へ元配偶者の転勤で来たものの離婚となりました。帰る実家もなく、仙台に子どもも残りました。ここには、頼る人もいなければ、友達もいません」「DVで逃げてきた。仙台にいることも、こんなことになってしまったことも誰にも言えずにいる」という方がいます。

Q 相談の方法は何が便利ですか？ひとつお選びください。



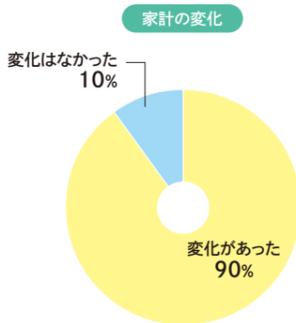
「相談したくても窓口へ行く時間が取れない」「日中は仕事をしているので、役所や母子センターへ相談に行けない」「小さい子どもがいるので出掛けでの相談は無理」という声が多く聞かれました。来所不要・相談時間不問の相談窓口を希望する傾向が見られます。このような声から、当法人の「子どもの居場所事業」では、来所や退所時の「路上相談」を行なっています。

ひとり親世帯の親御さんに、「お子さんたちに、何が必要だと感じているのか」を伺ってみました。

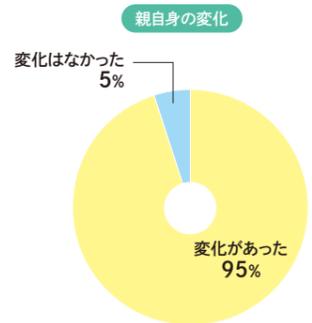
- 「外で遊べる機会」
- 「精神的な支え・経済的な支え・友達・様々な体験・学力」
- 「今の年齢でしかできないことも楽しい経験」
- 「社会性」
- 「ちゃんと栄養がとれた食事」
- 「勉強を見てくれる人」
- 「親との時間」
- 「落ち着いて勉強できる環境と意欲」
- 「勉強出来る環境、息抜き出来る環境」
- 「母親以外の頼れる大人」
- 「少しずつ自立心」
- 「スポーツを習わせたい」
- 「子どもの話を親が聞く時間」
- 「子どもが我慢せずに親に言えるような親の経済力」
- 「休みでも思いっきり遊べる友達がいたらなと思います」
- 「宿題を見たり丸つけしてあげる大人がいてくれるといいなと思います」

- 「勉強よりも日常生活のルールや規則正しい生活」
- 「楽しい学校生活」
- 「野外体験」
- 「休息 夏休みなどに毎日児童館で、ゆっくり過ごすのは日曜だけ、これで良いのかな〜と感じる」
- 「手料理と一緒にいる時間」
- 「家庭学習を頑張ろうとする意欲を与える環境」
- 「大人の手」
- 「居場所」
- 「他者交流」
- 「運動する機会」
- 「サッカーやキャッチボールなどスポーツの相手」
- 「保育園と親以外の交流の場」
- 「(親以外の)頼れる大人」
- 「学校や家庭以外のコミュニティ」
- 「大人の支援」

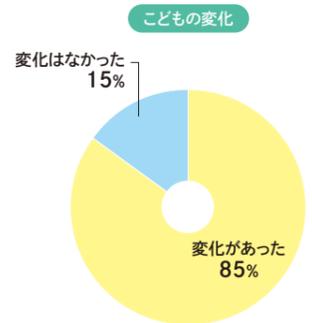
Q mia forzaの応援を受け、変化をしたことはありますか？



90%もの家庭が、「家計に変化があった」と回答。「浮いた食費で貯蓄ができるようになった」「子どもの服や靴を買うことができた」「月末でお金が足りなくなっても、食糧提供で食いつながることができるようになった」「月に1回、子どもと外食ができるようになった」との声がありました。



「変化があった」と答えた方たちのなかには、「気持ちの余裕ができた」「支えられている安心感」「頑張っている自分へのご褒美が届くようになって嬉しかった」「たくさんの方々に助けられて生きているという感謝と喜びを感じ、心が潤うとともに、今まで以上に感謝の気持ちが生まれました」との声がありました。



「変化があった」具体的な内容として、「子どもと共通の話題ができた」「家庭の中の会話や笑顔が増えた」「以前より、いろいろなことに興味や関心を持つようになった」「学校の先生から、子どもが積極的に発言したり、友達と関わるようになったと言われた」という声がありました。



第5章 We are “みあちゃん家”



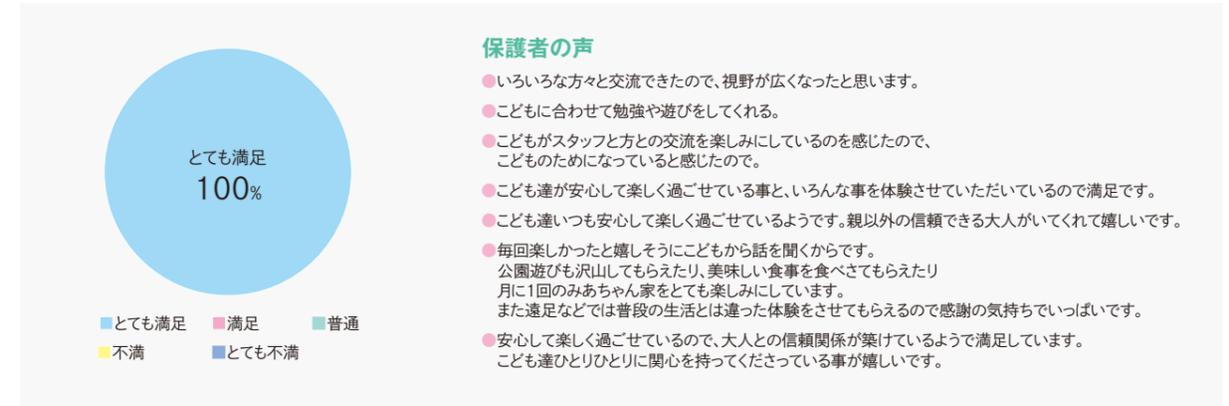
私たち、特定非営利活動法人mia forza こどもの居場所事業スタッフは、2022年度の活動を経て、2023年度の活動を開始しました。本書の最後に、2022年度こどもの居場所事業に関わった方々の「声」をお届けさせていただきます。

こどもの居場所・みあちゃん家を利用した子どもたちと保護者の声

「mia forzaの皆様、またみあちゃん家に関わっている全ての皆様大変お世話になりました。ひとり親になってからしばらく経ちました。色々不安を抱えながらも息子が楽しいと思えるような日々をしたいと思い過ぎていました。そんな中みあちゃん家のチラシを見て、新しい居場所が出来るかもしれないと思い申し込みをいたしました。自分の想像以上に沢山のことをしてただけで、本当に感謝しかありません。思いっきり公園で遊んでもらえたり、遠足に行ったり、プレゼントをたくさんいただけたり…本当に本当にありがとうございました。私自身が去年は体調を崩して寝込んでいる日々も多く、外で元気に遊んでもらい息子から楽しかったという話を聞くと参加させて良かったと思えました。素晴らしい場所を作ってください、誠にありがとうございました」

「上手く伝えられませんが、参加してよかったです。今後も続いていければ良いなと思います。初めはフードパントリー利用時のパンフレットを読んでこどもの居場所作りに良いのではと子どもに相談しました。慣れない場所、大人、電車で一人で通う事に対して最初は戸惑っていたと思います。初めて参加したその日は帰ってきてからずっとみあちゃん家の話をしていました。その日の出来事、自分の考えと周りの対応の違い等。いろんな刺激を受けたようです」

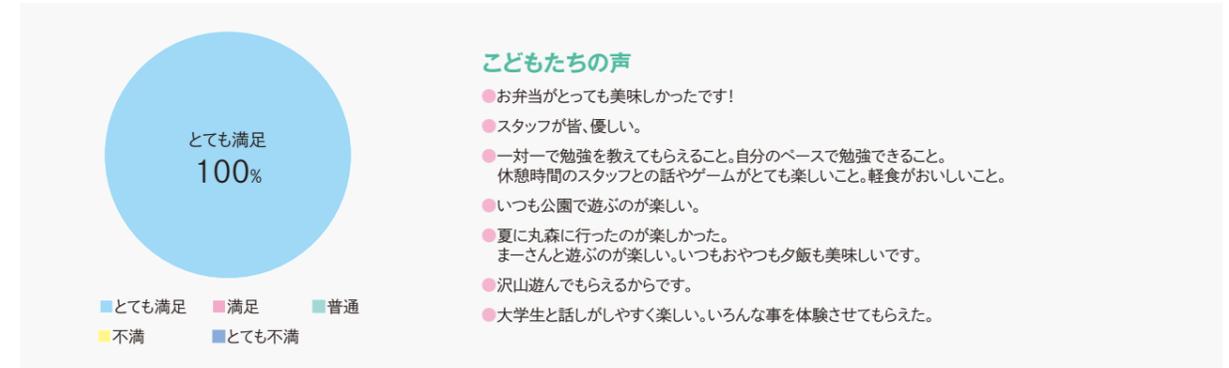
表5-1 こどもの居場所事業を利用した感想(保護者)



保護者の声

- いろいろな方々と交流できたので、視野が広がったと思います。
- 子どもに合わせて勉強や遊びをしてくれる。
- 子どもがスタッフと方との交流を楽しみにしているのを感じたので、子どものためになっていると感じたので。
- 子ども達が安心して楽しく過ごせている事と、いろんな事を体験させてもらっているので満足です。
- 子ども達いつも安心して楽しく過ごせているようです。親以外の信頼できる大人がいてくれて嬉しいです。
- 毎回楽しかったと嬉しそうに子どもから話を聞くからです。公園遊びも沢山してもらえたり、美味しい食事を食べさせてもらえたり月に1回のみあちゃん家をとても楽しみにしています。また遠足などでは普段の生活とは違った体験をさせてもらえるので感謝の気持ちでいっぱいです。
- 安心して楽しく過ごせているので、大人との信頼関係が築けているようで満足しています。子ども達ひとりひとりに関心を持ってくださっている事が嬉しいです。

表5-2 こどもの居場所事業を利用した感想(子ども)



子どもたちの声

- お弁当がとっても美味しかったです！
- スタッフが皆、優しい。
- 一対一で勉強を教えてもらえること。自分のペースで勉強できること。休憩時間のスタッフとの話やゲームがとっても楽しいこと。軽食がおいしいこと。
- いつも公園で遊ぶのが楽しい。
- 夏に丸森に行ったのが楽しかった。まーさんと遊ぶのが楽しい。いつもおやつも夕飯も美味しいです。
- 沢山遊んでもらえるからです。
- 大学生と話しがやすく楽しい。いろんな事を体験させてもらえた。

学生スタッフの声



古淵 萌さん (ぶちこ)

みあちゃん家での活動に学生ボランティアとして参加してからそろそろ一年となり、この活動について振り返ってみると、子どもたち、学生スタッフ、社会人スタッフそれぞれがお互いに影響を与えながら変化する中で、みあちゃん家のかけがえのないメンバーへと変わっていききました。そしてこのメンバーで作り上げたみあちゃん家で、子どもたちが時間を過ごし、初めは硬い表情で参加していた子が、私たちに心を開き、元気いっぱい楽しんでくれるようになった様子を見ると、みあちゃん家のスタッフの一員としてとても嬉しく思います。これからも、子どもにとっての大切な居場所になれるよう、精一杯活動したいです。

古淵さんは、大学の授業でmia forzaの活動を知り、活動へ参加をしました。「大学で募集されているボランティアにはよく参加していたのですが、一日限りであったり、子どもたち一人一人を見るというより、その場その場で見守る児童が変わるといった内容のものも多く、深く子どもに関わっている実感がありませんでした。みあちゃん家では、皆さんが私たち学生を信頼してくださり、子ども一人一人に担当を決めるというプログラムを展開しています。これが私にとってはすごく新鮮で、責任が強い分、より実践的だと感じました。まだ1度ではありましたが、とても貴重な経験をさせていただきました。二度目にも積極的に参加させていただきたいと考えております。」(2022年5月古淵さんから門間へのメールより)。古淵さんは、2023年度子どもの居場所事業・大学生リーダーとして、子どもの居場所・みあちゃん家の統括を担当しています。

板垣 百英さん(ガッキー)

私はみあちゃん家で活動させて頂いて、特に印象深かったのは、私が1年間担当していた男の子のAくんです。Aくんはみあちゃん家に参加した初めの頃は、話掛けても反応が無く、緊張していて笑顔もありませんでした。しかし、一緒に勉強したり、公園で遊んだり、花火を見たり、陶芸体験をしたりなど、同じ時間を過ごしていく中で、徐々に心を開いてくれたのか、笑顔を見せてくれるようになりました。さらに以前は、こちらからの一方的な質問ばかりでしたが、ある時Aくん自身から「大学ってどんなところ?」と私に話掛けてくれるようになりました。私は、これまで受け身だったAくんからアクションを起こしてくれたことに驚き、嬉しさを覚えました。Aくんのちょっとした心の居場所になっているのではないかと思います。Aくんは今回で卒業してしましますが、Aくんの大切な中学時代の1年間に関わることができて嬉しかったです。誠意を持って相手に関われば、良い変化が起こるという貴重な経験を私自身させていただけたと思っております。Aくんが、これからもみあちゃん家での思い出を忘れないでいて欲しいなと思います。

大学の授業でmia forzaの活動を知ったとのことで、2022年4月に板垣さんからメールが届きました。「今の日本では、子どもの貧困や教育格差が問題となっており、度々ニュースでも取り上げられています。近年のコロナ禍でさらに悪化し、私の知り合いでも経済的な事情で学校を退学したり、進学を断念したり、進路を変更したり、塾に通えなかったりといった話をよく耳にします。こういった経済状況や家庭環境の影響で、学びたくても学べない子どもたちの力になりたいと思いました」。板垣さんは、その思いを胸に、子どもの居場所・みあちゃん家で、思春期に差し掛かった子どもたちを2022年度に引き続き2023年度も担当しています。

阿部 雅也さん(まーさん)

私はこの活動を通して、お子さん達が始めの頃より明るく元気に、時には真面目にメリハリをつけ活動に参加する様子からお子さんたちの成長を感じさせていただくと同時に、普段の生活の中に多くのフシギがあると気づかせていただきました。今は当たり前なことでもそれはお子さんたちにとって「なぜ?どうして?」という疑問であり、当たり前すぎてうまく説明できないことや、その視点に驚かされるが多々ありました。お子さんから学んだ日常生活のフシギを大切にワクワクした日常が送れるような様々な視点から物事を観察していきたいです。

代表理事・門間との出会いは、阿部さんがまだ小学生だった頃に遡ります。2022年・大学1年生の春休みに、子どもの居場所事業を立ち上げることを聞いた阿部さんから「私は現在、大学で教職課程を受けており、その中で教育機会が均等ではないことを学んだばかりでした。少しでも困っている子ども達を支援できるのであれば、活動に参加して出来るだけの努力をしたいです」との連絡がありました。阿部さんは、2023年度子どもの居場所事業・大学生リーダーとして、会議運営やスタッフ間の連絡調整を担当しながら、子ども居場所・みあちゃん家と寺子屋みあちゃん家で活躍しています。

唯 華峰さん(かほう)

mia forza学生スタッフとして2022年度のみあちゃん家に参加できて大変嬉しく思います。mia forzaでは子どもたちにとって「私を応援してくれる居心地のいい場所」であるために、多様な研修の機会を設けてくださいました。子どもと関わるための必要な知識について学ぶことができ、担い手の関係づくりを大切にするmia forzaだからこそ笑顔で子どもたちを迎えることができたと感じています。子どもたちがやりたいことを実現し、作り上げて行くことは、子どもたちはもちろん私自身にも大きな刺激となりました。

唯さんは、当法人のFacebookで「子どもの居場所・みあちゃん家 有償ボランティア募集」記事を見て参加をしました。子どもの居場所・みあちゃん家と寺子屋みあちゃん家で、現在も活動中です。また、子どもたちを応援する活動を始めた思いや、自身の経験を子どもたちに伝える活動も行っています。さらに、当法人の「ひとり親世帯調査事業」メンバーのひとりとしても活動しています。

七戸 福蘭さん(ふくらちゃん)

みあちゃん家に参加したことで自身の変化、学生スタッフが子どもたちに与えた変化、子どもたちが親に与えた変化など多くの「変化」を感じることができました。

自身の変化としては、人に自分の意見や考えていることを言えるようになりました。物心がついたときから人前に立つことも発表することも苦手なまま大学生になってしまった私にとってはすごく大きな変化です。苦手を克服するのは容易ではありません。私の「苦手」を改善の兆しへ導いてくださったこのような機会に感謝しています。また、子どもという「人」との付き合い方であったり、事業に関わる中で身につけた作法であったり様々なことを日々学び、時間が経つごとに成長を感じることができており、みあちゃん家事業に参加して良かったと思っています。

子どもの居場所事業開始に向けたスタッフ研修会の開催を友人から聞いた七戸さんは、事業に関心はあるものの、「事業の詳細について一度お話を聞いた上で検討したいと考えており、その後の研修への参加は現段階では考えていません」とメールに綴っています。研修を経て、1回目、2回目と子どもの居場所へ参加。七戸さんは、現在、子どもの居場所・みあちゃん家で低学年の子どもたちを担当し、優しい人柄で子どもたちと確かな信頼関係を結ぶまでになりました。2023年度も引き続き、子どもの居場所・みあちゃん家の主力メンバーとして活躍しています。

鈴木 大斗さん(ジャン)

私はみあちゃん家に参加してコミュニケーション能力が向上したと感じます。普段話さない小中学生とどのようにすればうまく話せるだろうと自分なりに工夫して距離を縮められるよう努めています。そこで自分の考えていたことが子どもたちに伝わったり、楽しそうに笑ってくれたりするともすごく自分自身も嬉しくなるとともに自信になります。また、大学生間での話し合いの場が設けられており自分では思いつかないような違う視点の意見を聞けたり、自分の学んでいない専門分野の具体的な内容の学びを得られるので良い刺激にもなります。

鈴木さんは、すでに活動をしていた大学生スタッフに誘われて、2022年秋から活動に参加しました。他県の大学から毎回片道2時間かけて、子どもの居場所・みあちゃん家と寺子屋みあちゃん家へ通っています。長時間の移動が大変なのは、と尋ねたところ「担当していることもに会いたいから頑張ります!」とのこと。2023年度子どもの居場所事業・大学生リーダーのひとりとして、寺子屋みあちゃん家の統括を担当しています。



社会人スタッフの声

2022年度子どもの居場所事業・リーダー 桑野 知美さん(とみい)

「なんて素敵な人たちに恵まれた“居場所”だったのだろう。」この1年を振り返ると、そう思わずにはいられない。令和4年5月、「子どもの居場所・みあちゃん家」は、期待と不安と緊張の中で産声を上げた。毎回、子どもたちは違う表情を見せてくれた。学生スタッフは、みあちゃん家で見せる子どもたちの多種多様な表情を振り返っては、より良い居場所にするために意見を出し合い、次の動きを考え取り入れてきた。アドバイザーの方々や協力者は、学生たちが全力で子どもたちに向かい合えるよう、わきを固め、絶妙なタイミングで適切な助言や学びや新しい視点を提供してくださった。いつの間にか、最初に存在していた不安や緊張はとても小さくなり、子ども・学生・大人、みんなの期待が連動して「みあちゃん家」を作り上げているのだと感じるようになった。そう思えるような素敵な人たちと一緒に時間と想いを共有できたことを、心から誇りに思う。

Facebookの記事を見た桑野さんから「mia forzaの活動を手伝わせていただけないでしょうか?」との連絡をいただいたのが、2022年3月25日。長年仕事で培われたコーディネート力を活かし、子どもの居場所事業のリーダーをお引き受けいただきました。本業の仕事が忙しくなるとのことで2022年度のみ参加となりましたが、今も私たちメンバーと事業を見守ってくれています。

2022年度子どもの居場所事業・サブリーダー 眞野 美加さん(まろちゃん)

緊張で始まった日が遠く感じるほど、子ども達は生き生きとした目で、色んな事を話してくれます。ここに至るまでの、学生スタッフの存在は大きく、不器用ながら一生懸命に子ども達を理解しようとするまっすぐさに、一緒に取り組む大人として「見守る」の意味を改めて考えさせられました。引き続きこの場を通じて、参加する子ども達や保護者の方、そしてスタッフ全員が各々の幸せな人生を選んで歩んでいけるよう、これからもアイデアを出し合いながら、一人も取りこぼさない場をつくっていくため「信じぬくこと」を大切にしていきます。

当法人の「2021年度ボランティア研修」を受講後、フードパントリーボランティアを経て2022年度より食糧提供事業リーダーに就任。同時に、子どもの居場所事業のサブリーダーとしても活動していただきました。本事業では、大学生スタッフの育成のほか、事業評価にも尽力。現在は、当法人の中心メンバーとしてほぼ全ての事業で活躍しています。

こどもの居場所事業・食事担当 鳴原 幸恵さん（しぎはらさん）

オーガニック、マクロビレストランとして42年。まだ玄米ごはんや無農薬野菜で食事を出すお店もほとんどない頃、子育て中の私は食べ物が大事とすごく感じ、自ら友人とおひさまやを始めた。たくさんの出来事、喜び悲しみたくさんをここで経験して、今度はおひさまやの場所をみあちゃん家が使ってくれるという。狭くて大丈夫かとちょっと心配もしたけど、隣のショップも開放することでなんとか小さな二部屋ができた。私の仕事はごはんをつくってみんなに食べてもらうこと。玄米ごはんだけ大丈夫？初めてまもない頃は白米も用意してみたりしたけど、子供たちは玄米を喜んでくれる。とにかく明るくてよく食べる。最初の頃は少食の子もこの頃は体も一回り大きくなってよく食べる。何よりお皿が空っぽになって戻ってくる。おかわりの声があちこちで聞こえること。一番嬉しい瞬間です。このごはんは材料だけは世界一。有機の畑で育った野菜とお米が主役、調味料も職人さんがコツコツ作り続けて来たピカイチのもの。まずいわけではないけれど今時の子はどうか？…全然心配無用でした。おいしいってよく食べてくれるのが何よりの証拠。体は食べたもので作られているの？わかる？時おり調理の最中に子供たちと交わす会話、今日は何かなあ？って楽しみに聞いている子。ちょっとしたこの会話が楽しい時間。テーブルを囲んでみんなでワイワイおしゃべりしながらごはんを食べる。素晴らしい時間は大きな喜びのエネルギー満載の場となって花が咲く、あっちにもこっちにも…調理場からそれを眺めている時間が至福の時間。ひとりひとり幸せになっていく時間…大切な食事の時間です。2年目に入ってみあちゃん家ますますパワーアップ。農家さんの畑まで出かけて、外でのワーク、野菜の収穫、農家さんからのお話を聞き、畑周りを散策、そして外ごはん、鬼ごっこ、山羊さん、うさちゃん、わんこに鶏さんと触れ合って食べ物の育つところを見せてもらって、お勉強。新しい経験。そして、とてもよくサポートしてくれている大学生さんの寄り添う姿にいいなあと思う。とても自然なのです。こういう時間さっと少ないなあと思って。素晴らしい時間をたくさんいただいで私は幸せです。これからもよろしく願いいたします。

Organic Macrobiotic Vegan食堂Cafe おひさまや オーナー。オーガニック・マクロビレストランの草分け的存在。代表理事・門間が、こども食堂を経て「よりこどもたちとつながる場所を」と声を挙げた時、会場提供と食事の応援を申し出てくださいました。みあちゃん家一番人気メニューは「玄米太巻き」。こどもたちは大喜びで賑わります。2023年度も引き続き、こどもの居場所事業の「食」を担っていただいています。

事業アドバイザーの声



坂本 一さん（はじめくん）

震災以来、宮城県沿岸南部で被災した子どもたちの支援に携わっています。人口規模が小さな地域は地域全体が共通した課題に直面するため、支援の施策や取り組みが必要とする対象者に届きやすいという一面があることを感じてきました。翻って仙台を中心とした都市化が進んだ地域では、家庭や子どもが抱えている課題や困難は都市の人混みの中に吸い込まれ見えにくくなりがちです。必要としている方々にどのようにつながるのか。その困難な取り組みに向かい合ってきた団体や個人の方々に私は敬意と関心を抱いてきました。縁あって事業の一端に加えていただき一年になります。支援する者もされる者も、年齢の数が多い者も少ない者も等しく大切にされる場に関わることができました。活動する地域がどこであろうと、関わる人が尊重される組織、場、営みであることが大切であることを改めて認識しています。

一般社団法人「まなびの森」代表。長年に渡る学習塾経営の経験から、震災以降は、被災地域の子どもたちを応援しています。坂本さんの子どもたちへの眼差し・関わりに感銘を受け、本事業のアドバイザーをお願いしました。大学生スタッフと共に活動をしながら、これまでの経験を余すことなく伝えてきています。2022年度本事業アドバイザーを経て、2023年度はひとり親世帯の中学生のための学習支援に特化した「寺子屋みあちゃん家」アドバイザーへ就任。

五嶋 理さん（ゴツティ）

学習支援を表看板にしながら、安心して過ごせる居場所づくり、安心して悩みを相談できる人とのつながりづくり、家庭—学校だけではなかなか出会えない多様な人との出会いづくりを目指した場づくりを目指し、学生スタッフともに対話と学びを積み重ねて来ましたが、わずか1年間で、子どもたち・学生スタッフともに大きな変化を見せたと感じます。特に学生スタッフの子どもたちに向けた視線の温かく且つ専門性をチームとして高めていく様子には本当に驚かされました。その支えによって子どもたちも子どもたち同士でのつながりを深めながら、安心して自分のやりたいことに時間を使える安心の時間になっていったのではないかと感じています。自助・公助の間にある共助・互助という言葉が美しく語られながらもその実現がスローガンに終わる中で、本事業の在り方が子ども・家庭に寄り添いながら必要な機関へとつなぐ「ご近所さん」のような場になっていくと感じています。

現役の中学生教諭。こどもの居場所・みあちゃん家にて「みあちゃん家図書館」を開設。こどもたちに本に触れる機会を提供してくれています。また、ある時は、「化石が見たい!」というこどもたちのリクエストに応え化石を含む大きな岩を持参。ノミヤカナツチを使って化石を発掘する楽しさをこどもたちに体験させてくれました。本事業アドバイザーを経て2023年度より特定非営利活動法人mia forza理事に就任。

川北 秀人さん（かわきたさん）

感染症の拡大で深刻な影響を受けている家庭への支援を、フードパントリーから開始した同会にとって、その直後から新たな活動として「居場所」や「寺子屋」を相次いでスタートすることは、地域の切実なニーズに合う素晴らしい判断・実践であると同時に、その運営体制をつくりながら進める、という困難も伴うものでした。それを覚悟の上で、こどもや保護者にとって、最適な場づくりを心掛けたスタッフのみならず、それを支えた役員のみならずには、心からの敬意を表します。忙しい活動の中で、携わるスタッフ自身が「半人前・一人前」に求められる姿勢や技能を定義するとともに、その実践度を確認するなど、他の団体のモデルとなる実践をなされたことも、特筆すべき成果の一つと言えます。今後は、日常の活動の継続に加えて、寄付や会費などの自主財源を確保できるよう、広報や共有の機会を積極的に設ける必要がありますが、現場と組織の成長の機会ととらえて、これまで同様に意欲的に臨み続けていただけることを確信しています。

IHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者。mia forza発足時から、こどもや保護者を対象とした活動と並行した一団体内の担い手育成の必要性に提案されたことから、当法人では全ての事業において担い手育成を行なっています。当法人の各種事業などに講師やアドバイザーとして協力。2022年度本事業においては、事業計画の段階から参画。「半人前・一人前リスト」作成をはじめとする担い手育成と事業の仕組みづくりに注力していただきました。



代表理事より

こどもの居場所事業担当理事 門間 尚子さん（もんちゃん）

コロナ禍で誰もが大変な状況となる中「こどもたちのために」と、たくさんの方が駆けつけ、関わってくださいました。参加してくれたこどもたちやお母さん、受け入れをくださった筆甫や七ヶ宿のみなさん、おいしい食事をいつも作ってくださったおひさまやさん、貴重なお話をしてくださった講師のみなさん、事業と担い手を育ててくださったアドバイザーのみなさん、日々の運営に奔走してくれた大学生・社会人スタッフと事務局のみなさん、私たちに挑戦する機会を与えてくれた役員のみなさん。そして、助成をくださった独立行政法人福祉医療機構(WAM)様、公益財団法人ベネッセこども基金様、公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン様。印刷物やネットを通して本事業を社会へ伝えてくださった合同会社スカイスター様。誰かひとりでも欠けてしまったら、本事業はここまでの形を成すことはできませんでした。心から感謝申し上げます。

本事業は「少人数」と「こどもたち一人ひとりへの一对一の寄り添い」を、徹底しました。これは、私自身が長年取り組んだ「こどもの食堂」での経験から得た、反省ともいえる「こだわり」でした。みあちゃん家では、こどもたち一人ひとりの「声」をしっかりと聴くことを大切にしてきました。結果、こどもたちとともに大学生と社会人スタッフが、大きな成長を遂げました。

「寄り添い、声を聴くこと」の大切さは、こどもの居場所の活動だけではなく、私たちの営み全てに通じることかもしれません。

それは、決して難しいことでも、スキルや資格が必要なことではありません。あなたも大切な人に寄り添い、その声に耳を澄ましてみませんか？

本業の傍ら女性やこどもを応援する活動を続けて23年。全国で200以上のこども食堂に関わった後、mia forzaを法人化。コロナ禍の女性とこどもの急激な困窮から、こどもの居場所事業・ひとり親世帯と困難な高校生世代への食糧提供事業を展開する傍ら、女子少年院とNPOの連携による少年院出所者支援にも力を入れている。特定非営利活動法人mia forza代表理事。

